

言語活動を通して、思考力、判断力、表現力等を育む指導と評価の在り方についての研究 ～中学校社会科における社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動の設定～

土佐市立高岡中学校 教諭 池村 彰一
高知県教育センター 指導主事 前田 憲志

本研究は、社会科における思考力、判断力、表現力等の育成を目指し、指導と評価の改善を行うことを目的とした教育実践研究である。

高知県学力定着状況調査（社会科）結果では、思考力、判断力、表現力等に課題があることが明らかとなっている。授業において資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間の関連について考察することが十分できていないといえる。

本研究では、社会的事象の意味や意義について、視点を決めて解釈する活動を取り入れることで、生徒が社会的事象の特色や事象間の関連を説明することができるようになると仮説を立て、授業実践を行った。

この結果、学習テーマにせまるキーワードを生徒自身が選択することで、問いが生徒自身のものとなり、そして、新しい学習内容の理解と社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を十分に行うことで、社会的事象の特色や事象間の関連を説明することができることが分かった。

〈キーワード〉 社会的事象の解釈、社会的事象の特色・事象間の関連、思考力、判断力、表現力等

1 研究目的

(1) 国と高知県の課題

中央教育審議会答申の第2期教育振興基本計画で、我が国の児童生徒の学力の現状について、「思考力、判断力、表現力等を問う問題や記述式の問題に課題がある」ことを挙げている。

この課題に対して、現行の中学校学習指導要領解説社会科編では、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する」としている。これは社会科の思考力、判断力、表現力等において、社会科の見方や考え方を活用して社会的事象を考察させることに課題があるといえる。

高知県では、平成27年度高知県学力定着状況調査の概要において、社会科の思考力、判断力、表現力等に関する問題の正答率が、1年生（現2年生）では16.2%、2年生（現3年生）では23.0%であり、三つの観点の中で特に課題が見られる。例えば第1学年において、「資料を基に、遣唐使の派遣によって、国際的な要素をもった文化が栄え、遣唐使の廃止後に文化の国風化が進んだことについて、説明する」問題では、正答率14.3%、無解答率40.0%である。第2学年において、「資料を基に、明治政府による改革のねらいについて、説明する」問題では、正答率5.9%、無解答率38.9%である。このことから高知県学力定着状況調査の概要では、今後の改善ポイントとして「知識を覚えさせる学習で終わるのではなく、身に付けた社会的な見方や考え方を活用して社会的事象を考察させる学習活動」を行う必要があると示している。

つまり社会科における国と高知県の現状として、思考力、判断力、表現力等に課題があり、そのために社会的な見方や考え方を活用して社会的事象を考察させる学習活動を行う必要があるということが分かった。

表1 高知県学力状況調査における高知県の平均正答率および観点別平均正答率

| | 平均正答率 | | 思考力・判断力・表現力等 | | 技能 | | 知識・理解 | |
|---------|---------|---------|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 1年(現2年) | 2年(現3年) | 1年(現2年) | 2年(現3年) | 1年(現2年) | 2年(現3年) | 1年(現2年) | 2年(現3年) |
| 1年(現2年) | 37.9% | 36.7% | 16.2% | 23.0% | 34.0% | 46.1% | 55.7% | 29.1% |
| 2年(現3年) | 36.7% | 37.9% | 16.2% | 23.0% | 34.0% | 46.1% | 55.7% | 29.1% |

表2 高知県学力状況調査における問題形式別の高知県の平均正答率

| | 記述式 | | 選択式 | | 短答式 | |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 1年(現2年) | 2年(現3年) | 1年(現2年) | 2年(現3年) | 1年(現2年) | 2年(現3年) |
| 1年(現2年) | 16.2% | 17.6% | 51.2% | 47.1% | 31.2% | 27.0% |
| 2年(現3年) | 17.6% | 16.2% | 51.2% | 47.1% | 31.2% | 27.0% |

(2) 二つの学力調査から分かったA校の課題

平成28年度教研式NRTの思考力、判断力、表現力等に関する問題の、A校生徒の正答率は、1年生が48.1%、2年生が51.2%であり、全国の正答率を100としたときに、1年生で-19ポイント、2年生で-6ポイントと大きな差があった。特に検証授業を行った学級では、思考力、判断力、表現力等が評価の観点となる20問のうち、40%にあたる8問の通過率が全国と比較して大きな差があった。

また、平成27年度高知県学力定着状況調査での思考力、判断力、表現力等の正答率は、2年生(調査時は1年生)で15.3%、3年生(同2年生)で20.2%であった。例えば、1年次の「資料を基に、遣唐使の派遣によって、国際的な要素をもった文化が栄え、遣唐使の廃止後に文化の国風化が進んだことについて説明する」問題の正答率は12.9%、無解答率は23.7%であった。2年次の「資料を基に、明治政府の改革のねらいについて説明する」問題の正答率は2.7%、無解答率は35.4%という結果であった。1年次で4問、2年次で5問、資料などの情報を基に、社会的事象の特色や事象間の関連について考察する問題で同じ傾向が見られた。

このことからA校の課題として、資料などの情報を基に、社会的事象の特色や事象間の関連について考察することが苦手であるということが分かった。

表3 平成27年度高知県学力定着状況調査
・平均正答率および観点別平均正答率

| | 平均正答率 | | 思考力・判断力・表現力等 | | 技能 | | 知識・理解 | |
|---------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 |
| 1年(現2年) | 39.3% | 37.9% | 15.3% | 16.2% | 34.3% | 34.0% | 60.0% | 55.7% |
| 2年(現3年) | 35.9% | 36.7% | 20.2% | 23.0% | 45.7% | 46.1% | 29.9% | 29.1% |

・問題形式別平均正答率

| | 記述式 | | 選択式 | | 短答式 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 |
| 1年(現2年) | 15.3% | 16.2% | 51.8% | 51.2% | 35.0% | 31.2% |
| 2年(現3年) | 15.9% | 17.6% | 46.6% | 47.1% | 26.2% | 27.0% |

・無解答が20%を超える観点別の問題数

| | 思考力・判断力・表現力等 | | 技能 | | 知識・理解 | |
|---------|--------------|-----|----|-----|-------|-----|
| | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 |
| 1年(現2年) | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2年(現3年) | 5 | 5 | 0 | 2 | 0 | 0 |

・無解答が20%を超える問題形式別の問題数

| | 記述式 | | 選択式 | | 短答式 | |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 | A校 | 高知県 |
| 1年(現2年) | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2年(現3年) | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 2 |

表4 平成28年度実施教研式NRT
・平均正答率および観点別平均正答率

| | 平均正答率 | | 思考力・判断力・表現力等 | | 技能 | | 知識・理解 | |
|----|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | A校 | 全国平均 | A校 | 全国平均 | A校 | 全国平均 | A校 | 全国平均 |
| 1年 | 56.3% | 63.6% | 48.1% | 59.2% | 62.0% | 68.0% | 58.2% | 63.5% |
| 2年 | 54.8% | 56.4% | 51.2% | 54.5% | 55.4% | 58.4% | 56.5% | 58.2% |

・全国の正答率を100としたときの在籍校の指数と（ ）は全国との差

| | 思考力・判断力・表現力等 | 技能 | 知識・理解 |
|----|--------------|---------|---------|
| 1年 | 81 (-19) | 91 (-9) | 92 (-8) |
| 2年 | 94 (-6) | 95 (-5) | 97 (-3) |

(3) 先行研究

社会科の言語活動では、社会的事象の意味、意義を考える学習や、社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを通して、社会的な見方や考え方を養うことが効果的であると言われている。

大杉(2011)は、言語活動を「読み取る」「解釈」「説明」「論述」と以下の①～④のようにまとめている。

- ① 読み取る：図や写真、グラフや表、文書資料等から学習に必要な情報を正確に取り出す。
- ② 解釈：社会的事象の意味や意義を解釈すること。
- ③ 説明：社会的事象の特色や事象間の関連を説明すること。
- ④ 論述：自分はどう考えるのか、自分自身の意見を記述する。

また、小原(2011)は、「歴史学習が求める『思考力・判断力・表現力』とは、既に習得している基礎的な知識・概念・技能を活用して、歴史事象に対する『どのように、どのような』『なぜ、どうして』『どうすべきだったか、どの解決策がより望ましかったか』という問いに答えていく力ととらえること」としている。

(4) 研究の目的

本研究では、A校の課題を解決するために、各授業の中で、資料の読み取りから社会的事象の特色や事象間の関連を説明するまでの間に、社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を設定することが重要であることを授業実践により明らかにする。

2 研究仮説

各時間の中で社会的事象の意味や意義について、その背景を考え、自分なりの意見や考えをもつ時間を設定した後、視点を決めて解釈する活動を取り入れることで、社会的事象の特色や事象間の関連を説明することができる。

3 研究方法

(1) 指導方法

本研究では「解釈」とは、大杉(2011)の「ある事象がなぜ存在しているのか。その時代の社会にとってどのような意味があるのか、また他の社会にとってどのような意義をもっているのかを解釈すること」と定義する。「説明」とは、大杉(2011)の「社会的事象の特色や事象間の関連を説明すること」と定義する。

「中学校社会 歴史 未来をひらく 第2章 原始・古代の日本と世界 1 人類の出現と文明のおこり 2 日本の成り立ちと倭の王権」(教育出版)において検証授業を行った。検証授業では、各授業の中で取り組むべき学習テーマの中心となる社会的事象が、その時代の中でどのような意味や

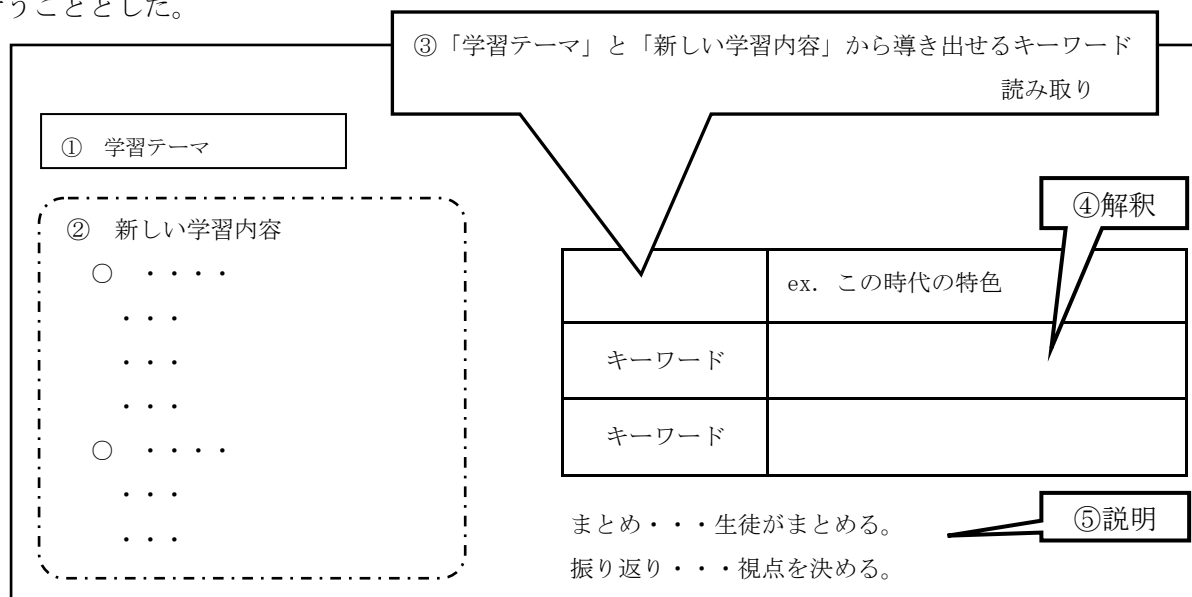
意義をもっているのか資料の情報から解釈させる学習活動を設定し、解釈したことを基に学習テーマについて説明させる。各時間における解釈させるための問いと説明させるための問いは表5の通りである。

表5 各時間における解釈させるための問いと説明させるための問い

| 時数 | 解釈させるための問い | 説明させるための問い |
|-----|---|---|
| 第1次 | 打製石器・磨製石器と土器を使うことで、原始時代の生活はどのように変わったのか。 | なぜ、原始時代の人類は様々な環境で生きぬけたのだろう。遺物をもとに説明しよう。 |
| 第2次 | 農業と文字が人々の生活にどのように役立ったのか。 | 文明は、人々の生活の中でどのように形づくられたか。遺物の共通点をもとに説明しよう。 |
| 第3次 | 中国や日本は東アジアの中でどのような存在だったのか。 | なぜ、日本は中国に朝貢したのか。資料から説明しよう。 |
| 第4次 | 共同生活で、狩りや漁・採集と土偶はどのような効果があったのか。 | なぜ、縄文時代の人々はむらをつくって暮らしたのだろう。資料をもとに説明しよう。 |
| 第5次 | 稲作と金属器はどのように生活を変化させたのか。 | なぜ、弥生時代で人々の生活は変化したのか。資料をもとに説明しよう。 |
| 第6次 | 渡来人と鉄・漢字は、大和政権と朝鮮半島との関係にどのような役割を担ったのか。 | なぜ、前方後円墳が九州から関東にまで広がっているのか。古墳の出土品をもとに説明しよう。 |

(2) 板書から見る授業イメージ

本研究では、検証授業を、①本時の学習テーマを提示する。②本時の新しい学習内容を示し説明する。③新しい学習の中で、学習テーマにせまるキーワードを問う。④キーワードを基に、社会的事象の意味や意義を解釈する活動を個人で行った後、グループで意見交換を行う。⑤意見交換した内容を基に、学習テーマである社会的事象の特色や事象間の関連について説明する。という流れで行うこととした。



(3) 評価

次の観点で評価を行った。「解釈」では、「ある事象がなぜ存在しているのか。その時代の社会にとってどのような意味があるのか、また他の社会にとってどのような意義をもっているのか。」について見取るために評価表を作成した。A評価は、ある事象が社会にとってどのような意味があるのか具体的事例を用いて記述しているものとした。B評価は、ある事象が社会にとってどのような意味があるのかについて記述しているものとした。「説明」では、解釈したことを基に、学習テーマについて具体的事例を用いて説明しているものをA評価とし、学習したことを基に説明しているものをB評価とした。具体的評価の仕方については、別添資料に記載する。

4 結果と考察

(1) 結果

ア C評価の少ない授業

第1・2・4・5次は、社会的事象の意味や意義を解釈することができ、社会的事象の特色や事象間の関連について説明することができた生徒が過半数を超えた。

イ C評価の多かった授業

第3・6次は、社会的事象の意味や意義を解釈することができた生徒が過半数を超えたが、社会的事象の特色や事象間の関連について説明することができた生徒は過半数を超えなかった。

ウ C評価の記述

社会的事象の意味や意義を解釈する問いで、C評価となった記述は、教科書の内容を抜き出したもの、根拠を示さず予想したもの、時代背景と結びついていないものが見られた。

社会的事象の特色や事象間の関連を説明する問いで、C評価となった記述は、社会的事象の特色や事象間の関連を十分に説明しきれていないもの、学習テーマに対応していないものが見られた。

この結果から、生徒が解釈したことを基に、社会的事象の特色や事象間の関連についての説明をすることができた時間とできなかった時間が明らかとなった。

表6 各時間の解釈・説明・総合評価の評定別人数

| 時数 | 社会的事象の意味や意義の解釈 | | | 社会的事象の特色や事象間の関連の説明 | | | 総合評価 | | |
|-----|----------------|----|----|--------------------|----|----|------|----|----|
| | A | B | C | A | B | C | A | B | C |
| 第1次 | 0 | 20 | 7 | 7 | 19 | 1 | 3 | 17 | 7 |
| 第2次 | 2 | 19 | 4 | 2 | 21 | 2 | 2 | 17 | 6 |
| 第3次 | 0 | 19 | 7 | 3 | 7 | 16 | 1 | 7 | 18 |
| 第4次 | 0 | 22 | 2 | 15 | 4 | 5 | 9 | 11 | 4 |
| 第5次 | 2 | 15 | 11 | 15 | 5 | 8 | 7 | 11 | 10 |
| 第6次 | 0 | 15 | 13 | 3 | 10 | 15 | 1 | 9 | 18 |

表7 C評価の記述

| 時数 | 社会的事象の意味や意義の解釈 | 社会的事象の特色や事象間の説明 |
|-----|---|--|
| 第1次 | 「狩りをしたり、食料を取ったりして自分の身を守っている」 「自分が生活をする上で必要になっていったもの」 | 「植物の採集に役立った」 |
| 第2次 | 「肥えた土が川の近くにあり、麦を作っていた。」 「人とのコミュニケーションがとりやすくなり色々なことができるようになった。」 | 「文字を使って記録を残した。」 |
| 第3次 | 「経済が発展しており、いろいろな文化や食料ができるような存在。」「中国とは仲が悪い。」 | 「自分の国の文化があまり発展していないから、中国の百済の同盟を組み、文化の交流をはかろうとしていた。同盟することにより対立した。」 「中国の進んだ技術や文化を取り入れて、日本も中国に近づくために同盟を組んだ。」 |
| 第4次 | 「人々は同じ場所に住み、弓や犬、釣り針を使って生活している。」 「人々のまとまりに役立つ。」 | 「縄文人は、みんなでむらを作ることによって、人々がよくまとまった。」 |
| 第5次 | 「稲作するのに石包丁で収穫するようになった。」 「祭りが生まれて伝統ができた。」 | 「他国から稲が伝わった。」 |
| 第6次 | 「漢字を使って政権の記録や外国への文書など政治の面でも活躍した。」 「百済から儒教や仏教が伝えられ、後に日本人の思想や信仰を形づくる骨組みの1つとなった。」 | 「渡来人が来て、大和政権の技術や文化の発展につながった。」 「技術や文化が発展し日本が変わった。」 |

(4) 考察

第1・2・4・5次においては、社会的事象の意味や意義を解釈することができ、社会的事象の特色や事象間の関連を説明することができた。

これは、社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を行うまでに、各授業時間の学習テーマにせまるキーワードを、生徒自らが選択したことで、問いが生徒自身のものとなり、社会的事象の意味や意義を解釈することにつながったと考えられる。

社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を行う際に、テーマとなる社会的事象が、当時の人々の「生活」に関するものであったので、自分の意見や考えをもちやすかったと考えられる。

各時間の学習内容が、第1次「原始時代」、第2次「文明の成立」、第4次「縄文時代」、第5次「弥生時代」であり、時代の特色や背景をイメージすることができたと考えられる。第4・5次は、小学校6年次での既習事項にあたることから、学習内容をある程度理解していたと考えられる。

社会的事象の特色や事象間の関連を説明することができたのは、社会的事象の特色や事象間の関連について説明するまでに、自ら問いをもち、自分の意見や考えをもつことができたこと、小学校6年次での既習内容であったことで、時代の特色や背景をイメージすることができ、学習テーマについて考えることができたと考えられる。

社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動と社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習活動がつながったことで、生徒の思考に連続性をもたせることができたと考えられる。

第3・6次においては、社会的事象の意味や意義を解釈することはできていたが、社会的事象の特色や事象間の関連を説明することはできていなかった。

社会的事象の意味や意義を解釈することができたのは、社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動が、「日本と中国」「日本と朝鮮半島の国々」というような身近な内容ではなかったが、考える視点を明確にしたことで生徒が意見や考えをもつことができたと考えられる。第1・2・4・5次と同様に、生徒自らが問いをもったこと、小学校の既習内容であったことも、生徒が意見や考えをもつことにつながったと考えられる。

社会的事象の特色や事象間の関連を説明することができなかったのは、社会的事象の意味や意義を解釈した内容だけでは、社会的事象の特色や事象間の関連について説明するための情報が少なかったと考えられる。社会的事象の特色や事象間の関連について説明するためには、社会的事象の意味や意義をより深く解釈させるとともに、時代の特色や背景について、十分に理解させる必要がある。

授業改善を行うために、C評価の記述を分析する。

社会的事象の意味や意義を解釈することがC評価となったのは、教科書の内容を抜き出したものについては、発問が教科書の記述を抜き出すことでよいと思わせたため、社会的事象の意味や意義を十分に解釈することができなかったと考えられる。根拠を示さず予想したものについては、複数の社会的事象の意味や意義を同時に考えさせたため、新しい学習内容と問いのつながりが分かりにくく、根拠のない記述に終わったのではないかと考えられる。時代背景と結びついていないものについては、社会的事象と時代背景とを重ねて考えさせることができなかったため、言葉そのものの意味を記述するだけで終わってしまったと考えられる。

社会的事象の特色や事象間の関連を説明することがC評価となったのは、社会的事象の特色や事象間の関連を十分に説明しきれていないものについて、社会的事象の意味や意義を解釈する活動までが十分に理解させることができなかったためと考えられる。

学習テーマに対応していないものについては、社会的事象の意味や意義を解釈させるための問いと説明させるための問いとのつながりを理解させきれなかったため、説明しようとはしていたが、学習テーマとは違うものになったと考えられる。

以上のことから、社会的事象の意味や意義を解釈させるためには、社会的事象の意味や意義を解釈させる学習活動までに、学習テーマの中心となるキーワードを生徒自らが選択することで、問い

を生徒自らのものにする必要がある。「生活」に関することなど、できるだけ身近な視点をもたせる必要もある。解釈させる内容が国と国との関係など難しい場合には、時代の特色や背景を含めて、丁寧に確認しながら新しい学習内容を十分に理解させておく必要がある。複数の視点を解釈させると、考えるための時間を十分に確保することができないことが明らかとなったが、この学習の流れに生徒が慣れてくると、複数の視点を解釈させることもできると考える。

社会的事象の特色や事象間の関連について説明させるためには、新しい学習内容の理解が必要不可欠であることはもちろん、テーマとなる社会的事象が時代の中でどのような意味や意義をもっているかを、しっかりと解釈させておく必要がある。

5 成果と課題

(1) 成果

社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を有効に機能させるためには、各授業において学習テーマにせまるキーワードを生徒自身が選択することで、問いを生徒自身のものにする事ができ、社会的事象の意味や意義を解釈させることにつながる事が分かった。

「生活」に関することなど、生徒にとって身近な視点がテーマとなる社会的事象を考えさせることで、社会的事象の意味や意義を解釈できる事が分かった。

社会的事象の特色や事象間の関連を説明させる学習活動を有効に機能させるためには、それまでに、新しい学習内容の理解と社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を十分に行う必要がある事が分かった。

(2) 課題

社会的事象の意味や意義を解釈させるために、複数の社会的事象の意味や意義を解釈させると、歴史学習の最初の段階では、思考が広がりすぎる事から視点が定まりにくい。そこで初めは一つの社会的事象の意味や意義を解釈させることから始める必要がある。しかし、社会的事象について、多面的・多角的に考察する必要があるので、生徒が社会的事象の意味や意義を解釈する活動に徐々に慣れてくると、複数の社会的事象の意味や意義を解釈させる必要がある。

社会的事象の特色や事象間の関連について説明させるためには、新しい学習内容の理解が必要不可欠であるが、新しい学習内容によっては、時代の特色や背景をイメージしにくい場面もある。その時は、新しい学習内容を丁寧に指導する必要がある。

社会的事象の特色や事象間の関連について説明させるためには、社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を有効に機能させる必要がある。そのために社会的事象の意味や意義を解釈させるための時間を確保できるように、新しい学習内容の取扱いも含めて授業展開を構成する必要がある。

6 今後の取組

他の単元について、本研究の成果と課題を基に、社会的事象の意味や意義を解釈する学習活動を設定することで、生徒が社会的事象の特色や事象間の関連について説明することができるように、日々実践を重ねていきたい。

- ・文部科学省（2006）：中学校学習指導要領解説 社会編
- ・中央教育審議会（2013）：第2期教育振興基本計画について（答申）
- ・高知県教育委員会（2017）：第2期高知県教育振興基本計画
- ・高知県教育委員会（2017）：平成27年度高知県学力定着状況調査結果の概要
- ・高知県教育委員会事務局（2017）：平成27年度全国学力・学習状況調査結果
- ・高知県教育委員会（2016）：高知県授業づくりBasicガイドブック
- ・大杉昭英・小原友行（2011）：中学校社会科用 中学校社会科における言語活動 東京書籍

資料 検証授業のルーブリック

第1次 学習テーマ「なぜ、原始時代の人類は様々な環境で生きぬけたのだろう。
遺物をもとに説明しよう。」

| キーワード | 解釈 | | 説明 | | |
|--------------|-------------------------------------|---|---|---|--|
| | (解釈させるための問い) 原始時代の生活はどのように変わったのか | | (説明させるための問い) なぜ原始時代の人類は様々な環境で生きぬくことができたのだろう。遺物をもとに説明しよう。 | | |
| 打製石器 磨製石器 | A | 石器が狩りや漁・採集での使用において、効率的であったことを具体的事例を用いて記述している。 | A | 原始時代の人類が様々な環境で生きぬくことができたことについて、石器と土器の使用が、狩りや漁・採集と食生活で効率的であったことを具体的事例を用いて説明している。 | |
| | B | 石器を使うことで、効率的に狩りや漁・採集ができるようになったことなどを記述している。 | | B | 原始時代の人類が様々な環境で生きぬくことができたことについて、石器と土器の使用が、狩りや漁・採集と食生活で効率的であったことを説明している。 |
| | C | 解釈の記述がない。 | | C | 説明していない。 |
| 土器 | A | 土器の使用が、原始時代の生活において効果的であったことを具体的事例を用いて記述している。 | C | 説明していない。 | |
| | B | 土器の使用が、原始時代の生活において効果的であったことを記述している。 | | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | | | |

第2次 学習テーマ「文明は、人々の生活の中でどのように形づくられたか。
遺物の共通点をもとに説明しよう。」

| キーワード | 解釈 | | 説明 | | |
|-------|-----------------------------------|--|---|---|--|
| | (解釈させるための問い) 人々の生活にどのように役立ったのか | | (説明させるための問い) 文明は人々の生活の中でどのように形づくられたのか。遺物の共通点をもとに説明しよう。 | | |
| 農業 | A | 農業の始まりが人々の生活において、重要な役割を果たしたことを具体的事例を用いて記述している。 | A | 文明の成立において、農業の始まりと文字の誕生が重要な役割を担ったことを具体的事例を用いて説明している。 | |
| | B | 農業の始まりが人々の生活において、重要な役割を果たしたことを記述している。 | | B | 文明の成立において、農業の始まりと文字の誕生が重要な役割を担ったことを説明している。 |
| | C | 解釈の記述がない。 | | C | 説明していない。 |
| 文字 | A | 文字の誕生が人々の生活において、重要な役割を果たしたことを具体的事例を用いて記述している。 | C | 説明していない。 | |
| | B | 文字の誕生が人々の生活において、重要な役割を果たしたことを記述している。 | | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | | | |

第3次 学習テーマ「なぜ、日本は中国に朝貢したのか。資料から説明しよう。」

| キーワード | 解釈 | | 説明 | |
|-------|---------------------------------------|--|---|---|
| | (解釈させるための問い) 東アジアのなかでどのような存在だったのか。 | | (説明させるための問い) なぜ日本は中国に朝貢したのか。資料から説明しよう。 | |
| 中国 | A | 中国が、東アジアの中で影響力を持った国であったことを具体的事例を用いて記述している。 | A | 日本は中国に朝貢したことについて、中国が、東アジアの中影響力を持った国であり、また日本が朝鮮半島の一部の国と対等な関係を築き、一方で中国の臣下の立場をとる存在であることを具体的事例を用いて説明している。 |
| | B | 中国が、東アジアの中で影響力を持った国であったことを記述している。 | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | B | 日本は中国に朝貢したことについて、中国が、東アジアの中で影響力を持った国であり、また日本が朝鮮半島の一部の国と対等な関係を築き、一方で中国の臣下の立場をとる存在であることを説明している。 |
| 日本 | A | 日本が朝鮮半島の一部の国と対等な関係を築き、一方で中国の臣下の立場をとる存在であることを具体的事例を用いて記述している。 | C | 説明していない。 |
| | B | 日本が朝鮮半島の一部の国と対等な関係を築き、一方で中国の臣下の立場をとる存在であることを記述している。 | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | | |

第4次 学習テーマ「なぜ、縄文時代の人々はむらをつくって暮らしたのだろう。

資料をもとに説明しよう。」

| キーワード | 解釈 | | 説明 | |
|---------------|-------------------------------------|--|--|---|
| | (解釈させるための問い) 共同生活でどのような効果があったのか。 | | (説明させるための問い) なぜ縄文時代の人々はむらをつくって暮らしたのだろう。資料をもとに説明しよう。 | |
| 狩り 漁 採集 | A | 狩りや漁・採集が、共同生活で効率的に行われていたことについて具体的事例を用いて記述している。 | A | 縄文時代に人々がむらをつくって生活したことについて、狩りや漁・採集が、共同生活で効率的に行われたことと、土偶の影響について具体的事例を用いて説明している。 |
| | B | 狩りや漁・採集が、共同生活で効率的に行われていたことについて記述している。 | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | B | 縄文時代に人々がむらをつくって生活したことについて、狩りや漁・採集が、共同生活で効率的に行われたことと、土偶の影響について説明している。 |
| 土偶 | A | 土偶の共同生活に与える影響について具体的事例を用いて記述している。 | C | 説明していない。 |
| | B | 土偶の共同生活に与える影響について記述している。 | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | | |

第5次 学習テーマ「なぜ、弥生時代で人々の生活は変化したのか。資料をもとに説明しよう。」

| キーワード | 解釈 | | 説明 | |
|-------|--------------------------------|--|--|---|
| | (解釈させるための問い) どのように生活が変化したか。 | | (説明させるための問い) なぜ弥生時代で人々の生活は変化したのか。資料をもとに説明しよう。 | |
| 稲作 | A | 稲作の広まりが、弥生時代の生活を変化させたことを具体的事例を用いて記述している。 | A | 弥生時代での人々の生活の変化について、稲作と金属器の広まりが、弥生時代の生活を変化させたことを具体的事例を用いて説明している。 |
| | B | 稲作の広まりが、弥生時代の生活を変化させたことを記述している。 | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | B | 弥生時代での人々の生活の変化について、稲作と金属器の広まりが、弥生時代の生活を変化させたことを説明している。 |
| 金属器 | A | 金属器の広まりが弥生時代の生活を変化させたことを具体的事例を用いて記述している。 | C | 説明していない。 |
| | B | 金属器の広まりが弥生時代の生活を変化させたことを記述している。 | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | | |

第6次 学習テーマ「なぜ、前方後円墳が九州から関東にまで広がっているのか。

古墳の出土品をもとに説明しよう。」

| キーワード | 解釈 | | 説明 | |
|-------|---|--|--|--|
| | (解釈させるための問い) 大和政権と朝鮮半島との関係で、どのような役割を担ったのか。 | | (説明させるための問い) なぜ前方後円墳が九州から関東にまで広がっているのか。 古墳の出土品をもとに説明しよう。 | |
| 渡来人 | A | 渡来人が大和政権と朝鮮半島の間で、重要な役割を担ったことを具体的事例を用いて記述している。 | A | 前方後円墳が九州から関東にまで広がっていることについて、渡来人と鉄と漢字が大和政権と朝鮮半島の間で、重要な役割を担ったことを具体的事例を用いて説明している。 |
| | B | 渡来人が大和政権と朝鮮半島の間で、重要な役割を担ったことを記述している。 | | B |
| | C | 解釈の記述がない。 | C | 説明していない。 |
| 鉄と漢字 | A | 鉄と漢字が大和政権と朝鮮半島の間で、重要な役割を担ったことを具体的事例を用いて記述している。 | C | 説明していない。 |
| | B | 鉄と漢字が大和政権と朝鮮半島の間で、重要な役割を担ったことを記述している。 | | |
| | C | 解釈の記述がない。 | | |